

エネルギー研究会 屋久島調査報告会 「屋久島から考えるエネルギーの自治と協同」開催

★エネルギー研究会の公開研究会を開催しました。

2014年7月28日(月)、一般財団法人地域生活研究所のエネルギー研究会の公開研究会「屋久島から考えるエネルギーの自治と協同」を開催しました。これは2014年3月に同研究会のメンバーで実施した鹿児島県屋久島のエネルギー事業調査の報告会として開催したもので、日本で唯一、大手電力会社以外の主体による電力供給が行われている屋久島のエネルギー供給の実際とそこから学びとれるエネルギーの自治や協同の意義について議論を行いました。前半では研究会のメンバーであるえねみら・とっりの共同代表手塚智子さんより「屋久島から考えるエネルギーの自治と協同」と題してご報告をいただきました。各訪問先での具体的なヒアリングの内容を交えつつ、自治体や農協、任意組合といった多様な主体が電力供給を担っている屋久島の電力供給システムの実際を報告していただきました。また、屋久島のような実例があることから、2016



研究会の様子

年にも予想されている電力の自由化の後には自治体や協同組合による電力の小売りが実際に可能であること、それによって住民が実際にエネルギーの当事者になり、担い手となるエネルギーの自治と協同が実現することを報告していただきました。続いて高崎経済大学の西野寿章さんより「電気利用組合・町村営電気の歴史と意義を考える」題して報告いただきました。西野さんからは、現在と違い、自由に展開することが可能であった戦前の電力事業においては電気利用組合と呼ばれた電気の協同組合や町村営による電気事業が営まれていたという歴史をご紹介いただき、それらの事例では電気の地産地消が実現し、持続的な地域づくりに有効に働いていたことなどをご紹介いただきました。

当日は20名を超える参加者があり、報告後、活発な質疑と議論が行われました。

参加者からは、日本でもこれほど多くのエネルギー協同組合の事例があったことや、屋久島のように現在でも事例があることが非常に勉強になったという声が多く寄せられました。なお、今回の研究会に関連の論考は地域生活研究所発行の『まちと暮らし研究』16号、19号に掲載されています。あわせてご参照ください。



高崎経済大学 西野寿章さん